



Sun™ Management Center 3.5 VSP High-End Entry サーバー (ワークグループサーバー) のための追補マニュアル

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No. 817-2931-10
2003 年 8 月, Revision A

コメントの宛先: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、AnswerBook2、docs.sun.com、Sun Fire、Java、Sun Blade、および Sun Enterprise は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン・ロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	<i>Sun Management Center 3.5 Supplement for VSP High-End Entry Servers (Workgroup Servers)</i> Part No: 816-7259-10 Revision A
-----	--



目次

Sun Management Center 3.5 VSP High-End Entry サーバー (ワークグループサーバー) のための追補マニュアル	1
この追加ソフトウェアの構成内容	1
ワークグループサーバー用パッケージの位置付け	2
推奨パッチ	3
サポートするシステムと環境	4
ワークグループサーバープラットフォーム用のハードウェアの監視およびアラームのサポート	4
ワークステーションのユーザーに対する注意事項	7
必要な空きディスク容量	8
インストール方法	8
セットアップ	9
各言語対応パッケージのインストールの準備	10
サポートされないモジュール	12
プラットフォーム別の注意事項	12
Sun Enterprise 450 拡張ドライブ	12
Sun Fire V880 用の 動的再構成 (DR) モジュール	13
Sun Ultra 5 ワークステーションに対するエージェント更新の利用	13
バージョン 3.5 での新しい規則	14
Sun Management Center からの RSC ソフトウェアの起動	14

Sun Management Center 3.5 VSP High-End Entry サーバー (ワークグループサーバー) のための 追補マニュアル

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアは、適切な追加ソフトウェアを組み合わせることによって、対応するサンのプラットフォームを監視、管理することができます。ワークグループサーバー用の追加ソフトウェアは、対応する最上位エントリサーバー (ワークグループサーバー) システムを監視、管理する機能を付加します。

このマニュアルでは、この追加ソフトウェアに固有のインストールおよび設定に関する注意事項、強化された機能、解決されたソフトウェアの問題点について説明します。主要 Sun Management Center ソフトウェアの使用あるいはインストールについては、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』および主要製品ソフトウェアに付属しているその他のマニュアルを参照してください。

この追加ソフトウェアの構成内容

この追加ソフトウェアには、ワークグループサーバー専用のパッケージが含まれています。それらパッケージのインストール、更新、設定をするためのインストールプログラムとセットアップスクリプトも用意されています。8 ページの「インストール方法」および 9 ページの「セットアップ」を参照してください。

注 – 提供媒体には、主要 Sun Management Center ソフトウェアに対するパッチが含まれていることもあります。『ご使用にあたって』(製品のソフトウェア CD に収録) で説明しているように、それらのパッチは手動でインストールする必要があります。

ワークグループサーバー用パッケージの位置付け

アーキテクチャーとしては、Sun Management Center 3.5 のワークグループサーバー用パッケージは Sun Management Center 3.5 製品のサーバー階層とエージェント階層に対応しています。

表 1 Sun Management Center 3.5 追加コンポーネントのワークグループサーバー用パッケージ

パッケージ名	階層	説明
SUNWeswgs	サーバー階層	サポートするワークグループサーバーシステムを監視、管理するために Sun Management Center 3.5 サーバーが必要とするライブラリなどのファイルを提供します。このパッケージは、Sun Management Center 3.5 サーバーとして使用するすべてのシステムにインストールする必要があります。主要 Sun Management Center 3.5 サーバーソフトウェアとともにインストールしてください。
SUNWeswga	Sun Ultra™ および Sun Enterprise™ サーバー用のエージェント階層	サポートするワークグループサーバー (最上位エントリサーバー) システムを監視するために Sun Management Center 3.5 エージェントが必要とするライブラリなどのファイルを提供します。このソフトウェアは、Sun Management Center 3.5 の主要エージェントソフトウェアとともに、Sun Management Center 3.5 が監視するすべての Sun Ultra および Sun Enterprise ワークグループサーバーシステムにインストールする必要があります。
SUNWeswha	Sun Fire™ 280R/V480/V880 サーバー用のエージェント階層	サポートするワークグループサーバーシステムを監視するために Sun Management Center 3.5 エージェントが必要とするライブラリなどのファイルを提供します。このパッケージは、Sun Management Center 3.5 の主要エージェントソフトウェアとともに、Sun Management Center 3.5 が監視するすべての Sun Fire ワークグループサーバーシステムにインストールする必要があります。
SUNWeshd	Sun Fire V880 サーバー用のエージェント階層	Sun Fire V880 サーバーを動的に再構成するために Sun Management Center 3.5 エージェントが必要とするファイルを提供します。
SUNWeswgi	エージェントおよびサーバー階層	設定、エージェントの更新 (Agent Update)、追加ソフトウェアをインストールおよび削除するためのスクリプトと Java™ クラスファイルを提供します。
SUNWceswg	サーバー階層	簡体字中国語のワークグループサーバー用 Sun Management Center サーバー階層サポート
SUNWcswgi	サーバーおよびエージェント階層	簡体字中国語の Sun Management Center ワークグループサーバー初期設定

表 1 Sun Management Center 3.5 追加コンポーネントのワークグループサーバー用パッケージ (続き)

パッケージ名	階層	説明
SUNWfeswg	サーバー階層	フランス語のワークグループサーバー用の Sun Management Center サーバー階層サポート
SUNWfswgi	サーバーおよびエージェント階層	フランス語の Sun Management Center ワークグループサーバー初期設定
SUNWheswg	サーバー階層	繁体字中国語のワークグループサーバー用 Sun Management Center サーバー階層サポート
SUNWhswgi	サーバーおよびエージェント階層	繁体字中国語の Sun Management Center ワークグループサーバー初期設定
SUNWjeswg	サーバー階層	日本語のワークグループサーバー用 Sun Management Center サーバー階層サポート
SUNWjswgi	サーバーおよびエージェント階層	日本語の Sun Management Center ワークグループサーバー初期設定
SUNWkeswg	サーバー階層	韓国語のワークグループサーバー用 Sun Management Center サーバー階層サポート
SUNWkswgi	サーバーおよびエージェント階層	韓国語の Sun Management Center ワークグループサーバー初期設定

注 - これらのパッケージは pkgadd を使用してインストールしないでください。インストールスクリプトを使用してください。

推奨パッチ

Sun Management Center 3.5 アプリケーション用の推奨 Solaris ソフトウェアパッチがあります。サンとサービス契約をしている場合は、次の Web サイトからパッチをダウンロードすることができます。

<http://sunsolve.sun.com>

またパッチは、Sun Management Center 製品の Web サイトからダウンロードすることもできます。

<http://www.sun.com/sunmanagementcenter>

Sun Management Center 3.5 ソフトウェア用のパッチについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ソフトウェアご使用にあたって』を参照してください。

サポートするシステムと環境

Sun Management Center 3.5 では、ワークグループサーバー用追加ソフトウェアによって次のシステムがサポートされます。

表 2 サポートされるシステムプラットフォーム

Sun Enterprise 2	Sun Enterprise 420R
Sun Ultra 5	Sun Enterprise 450
Sun Ultra 10	Sun Fire 280R
Sun Enterprise 5s	Sun Fire V480
Sun Enterprise 10s	Sun Fire V880
Sun Enterprise 220R	Sun Filer N8200
Sun Enterprise 250	Sun Filer N8400

Sun Management Center 3.5 は、次のオペレーティング環境をサポートしています。

表 3 サポートされるオペレーティング環境

Solaris 2.6、エージェントのみ	Solaris 7 (32 および 64 ビット版)、 エージェントのみ
Solaris 8	Solaris 9

ワークグループサーバープラットフォーム用のハードウェアの監視およびアラームのサポート

Sun Management Center ソフトウェアには、ワークグループサーバープラットフォームの各種ハードウェア機能に対するさまざまなレベルの監視およびアラーム機能が用意されています。たとえば、Sun Management Center ソフトウェアはハードウェアを監視することができますが、すべてのハードウェアを監視できるわけではありません。同様に、ハードウェアに対してアラームを設定することができますが、す

すべてのハードウェアに対してアラームを設定できるわけではありません。Sun Management Center ソフトウェアには、一部ハードウェアに対する定義済みのアラームが用意されています。

表 4 は、従来のワークグループサーバープラットフォームに対する監視およびアラームのサポート内容をまとめています。この表で使用されている各文字の意味は以下のとおりです。

- x - このプラットフォームには、このハードウェア機能は該当しない。
- n - システム設計の制約上、このハードウェア機能は監視できない。
- M - このハードウェアは監視できる。
- A - このハードウェアにはアラームを設定できる。
- P - このハードウェアにはアラームが事前に定義されている。

表 4 従来のワークグループサーバープラットフォームに対する監視およびアラームのサポート内容

コンポーネント	U2	U5/10	220R	250	420R	450
CPU 装置	P	P	P	P	P	P
メモリーコントローラ	n	n	n	M	n	M
CPU の温度	n	n	n	M	n	M
メモリーバンク	n	n	n	M	n	M
DIMM	M	x	x	M	x	M
SIMM	x	M	M	x	M	x
電源装置	n	n	n	A	n	A
ファン	n	n	n	A	n	A
電源装置のファン	n	n	n	x	n	M
キースイッチ	x	x	n	A	n	A
稼働 LED	x	x	n	A	n	A
ディスクエラー LED	x	x	x	x	x	x
一般的なエラー LED	x	x	n	A	n	A
電源装置の LED	x	x	n	A	n	A
電源装置のエラー LED	x	x	n	A	n	A
温度警告 LED	x	x	x	A	x	A
RSC (Remote System Control)	x	x	x	M	x	x
ハードウェア規則	M	M	M	M	M	M
入出力コントローラ	M	M	M	M	M	M
入出力デバイス	M	M	M	M	M	M

表 4 従来のワークグループサーバープラットフォームに対する監視およびアラームのサポート内容 (続き)

コンポーネント	U2	U5/10	220R	250	420R	450
ディスクデバイス	A	A	A	A	A	A
テープデバイス	AP	AP	AP	AP	AP	AP
ネットワークデバイス	A	A	A	A	A	A
温度センサー	x	x	x	n	x	n

表 5 は、最新のワークグループサーバープラットフォームに対する監視およびアラームサポートの内容をまとめています。この表で使用されている各文字の意味は以下のとおりです。

- x - このプラットフォームには、このハードウェア機能は該当しない。
- n - システム設計の制約上、このハードウェア機能は監視できない。
- M - このハードウェアは監視できる。
- A - このハードウェアにはアラームを設定できる。
- P - このハードウェアにはアラームが事前に定義されている。

表 5 ワークグループサーバープラットフォームに対する監視およびアラームのサポート内容

コンポーネント	280R	V480	V880
CPU 装置	P	P	P
CPU/ メモリーモジュール ¹	x	M	M
DIMM	M	M	M
メモリーバンク	M	M	M
電源装置	A	A	A
EEPROM デバイス ²	M	M	M
ファン	A	A	A
キースイッチ	A	A	A
保守関係の LED	x	A	A
稼働中 LED	A	A	A
取り外し LED	A	A	A
ユーザー制御 LED	x	AM	x
温度センサー	A	A	A
RSC (Remote System Control)	n	M	M
入出力コントローラ	M	M	M

表 5 ワークグループサーバプラットフォームに対する監視およびアラームのサポート内容 (続き)

コンポーネント	280R	V480	V880
入出力デバイス	M	M	M
ディスクデバイス	A	A	A
テープデバイス	AP	AP	AP
ネットワークデバイス	A	A	A
電源装置のファン	n	n	n
稼働 LED	A	A	A
電源装置のエラー LED	n	n	n
温度警告 LED	n	n	x
CPU の温度	P	P	P
ディスクエラー LED	n	n	A

1- このハードウェアは、CPU とメモリーが一体化されているプラットフォームにだけ当てはまります。

2- 他の方法では監視対象にならないハードウェアコンポーネント用の種々の SEEPROM デバイスです。SEEPROM が存在していて監視対象であるコンポーネントの情報は、そのデバイステーブル内で SEEPROM 情報として表示されます。SEEPROM デバイスには、コンポーネントの製造情報が提供されます。

ワークステーションのユーザーに対する注意事項

表 6 に挙げる一部 Sun プラットフォームの場合、以前の Sun Management Center のインストールプログラムは、ワークグループサーバ版またはワークステーション版のどちらの Sun Management Center ソフトウェアもインストールできるようになっていました。これに対し Sun Management Center 3.5 では、これらのプラットフォームは、ワークグループサーバ版の Sun Management Center ソフトウェアだけを実行することができます。

表 6 ワークグループサーバ専用の追加ソフトウェアがサポートするプラットフォーム

Sun Ultra 2	Sun Ultra 10
Sun Enterprise 2	Sun Enterprise 10s
Sun Ultra 5	Sun Ultra 450
Sun Enterprise 5s	Sun Enterprise 450

必要な空きディスク容量

Sun Management Center 3.5 の主要パッケージは、大量の空きディスク領域を必要とします。表 7 に示すように、ワークグループサーバー専用の追加パッケージで必要になる追加空きディスク容量はわずかです。

表 7 必要な空きディスク容量

コンポーネント	主要製品	ワークグループサーバー用
エージェントパッケージ	40M バイト (概算)	1M バイト
サーバーパッケージ	780M バイト (概算)	4M バイト
コンソールパッケージ	70M バイト (概算)	なし

主要製品に必要なディスク容量は、変更されることがあります。詳細は、『Sun Management Center 3.5 ソフトウェアインストールガイド』を参照してください。

インストール方法

どのシステムでも、Sun Management Center のコンポーネントをインストールまたはアップグレードする場合は、Sun Management Center 3.5 インストールプログラムを実行します。インストールを終了したら、セットアップスクリプト（以下「セットアップ」）を実行して、正しくソフトウェアの設定をする必要があります。

インストールプログラムには、インストール手順を案内する対話形式の一連の質問が用意されています。インストールを開始する前に、ネットワーク上でサーバーとして機能するシステム、サーバーで監視するエージェントに設定するシステムを決めておいてください。

インストールプログラムを実行すると、システムのハードウェアおよびソフトウェア環境が検査されます。それまでに Sun Management Center ソフトウェアがインストールされていなかった場合、インストールプログラムは、最新の Sun Management Center 主要パッケージと追加コンポーネントをインストールするかどうかを選択するよう求めます。それまでにワークグループサーバーパッケージがインストールされていた場合は、古いパッケージを削除して、新しいバージョンに置き換えるかどうかを選択するよう求めます。

注 – 主要 Sun Management Center パッケージは、ワークグループサーバーパッケージとは異なるものです。インストールプログラムは、主要パッケージを自動では更新しません。『ご使用にあたって』で説明しているように、主要パッケージを更新するには、適切なパッチを適用する必要があります。

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストール手順の全容は、Sun Management Center 3.5 の提供媒体に付属しているマニュアルを参照するか、Sun Management Center 3.5 の Web サイトをご覧ください。

<http://www.sun.com/sunmanagementcenter>

セットアップ

Sun Management Center 3.5 のパッケージをインストールすると、インストールプログラムから、設定を実行するかどうかの問い合わせがあります。新しくインストールしたソフトウェアを使用するには、その前にセットアップを実行してソフトウェアを設定する必要があります。

セットアップは、スクリプトによるインストールの直後に表示されるプロンプトに対して「はい ([y])」と答えることによって実行することができます。または、セットアップを後で実行することもできます。後で実行するには、**Sun Management Center 3.5** のディレクトリの `/opt/SUNWsymon/sbin` に移動し、`./es-setup` コマンドを入力します。

セットアップを実行する方法は 2 通りあります。従来のセットアップスクリプトの `es-setup` を使用する方法と、新しい GUI 設定機能の `gui-setup` を使用する方法です。インストールの後で自動的に実行されるセットアップスクリプトは、使用するインストール方法によって決まります。たとえば GUI インストールプログラムを使用した場合、デフォルトでは、`gui-setup` が実行されます。インストール後に自動的にセットアップを実行しない選択をした場合は、後でセットアップスクリプトを実行するときに使用するセットアップ方法を選択することができます。これら 2 通り方法についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

注 – 必要ならば、`/opt/SUNWsymon/sbin` へのパスを設定することができます。ご使用のバージョンの Solaris オペレーティング環境に付属している『システム管理者ガイド』を参照してください。

グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) 形式のセットアップアプリケーションは、Sun Management Center 3.5 で初めて導入された機能です。このアプリケーションによって、GUI を利用して VSP ハイエンドエントリサーバー (ワークグループサーバー) 用の追加ソフトウェアの設定をすることができます。

GUI のセットアップを実行するには、Sun Management Center 3.5 のディレクトリの /opt/SUNWsymon/sbin に移動し、./es-guisetup コマンドを入力します。

GUI のセットアップアプリケーションについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

セットアップスクリプトの実行時期

新しくインストールした Sun Management Center コンポーネントのセットアップに要する時間は、インストールしたコンポーネントによって異なります。詳細は、表 8 を参照してください。

表 8 セットアップに要する時間

インストールしたコンポーネント	セットアップに要する時間
エージェントのみ	1 分未満
コンソールのみ	1 分未満
サーバーのみ	約 20 分 サーバーコンポーネントを初めてインストールした場合、セットアップスクリプトはシステムの設定をする前にシステムを再起動するよう求めます。
複数コンポーネント	個々のコンポーネントの設定に必要な時間を加算した時間

各言語対応パッケージのインストールの準備

以前のリリースの Sun Management Center ソフトウェアでインストールした各言語対応環境を使用している場合は、今回のリリースに付属している新しいバージョンの各言語対応パッケージをインストールする前に、古いパッケージを手動で削除する必要があります。次の表は、各言語対応パッケージの説明です。

表 9 削除する必要がある各言語対応パッケージ

パッケージ名	説明
SUNWfeswg	ワークグループサーバー用のフランス語 Sun Management Center サーバー階層
SUNWdeswg	ワークグループサーバー用のドイツ語 Sun Management Center サーバー階層
SUNWieswg	ワークグループサーバー用のイタリア語 Sun Management Center サーバー階層

表 9 削除する必要がある各言語対応パッケージ

パッケージ名	説明
SUNWeeswg	ワークグループサーバー用のスペイン語 Sun Management Center サーバー階層
SUNWjeswg	ワークグループサーバー用の日本語 Sun Management Center サーバー階層
SUNWkeswg	ワークグループサーバー用の韓国語 Sun Management Center サーバー階層
SUNWceswg	ワークグループサーバー用の簡体字中国語 Sun Management Center サーバー階層
SUNWheswg	ワークグループサーバー用の繁体字中国語 Sun Management Center サーバー階層

注 – 以前のバージョンの Sun Management Center をインストールしている場合、削除する必要があるのはこれらのパッケージだけです。Sun Management Center 3.5 ソフトウェアには、フランス語、日本語、韓国語、簡体字および繁体字中国語の各言語対応パッケージが含まれています。

以前の各言語対応パッケージの削除

1. インストールされている各言語対応パッケージがないかどうかを確認します (パッケージ名は表 9 を参照)。以下を入力してください。パッケージ名の部分は各言語対応パッケージ名に置き換えます。複数の各言語対応パッケージをインストールしている場合は、同じ行に空白文字で区切ってパッケージ名を入力します。

```
% pkginfo パッケージ名 パッケージ名
```

以前の各言語対応パッケージがインストールされている場合は、エラーメッセージが返されます。このことは、新しいパッケージをインストールしてもよいことを意味します。エラーメッセージが返されなかった場合は、次の手順で説明しているように古いパッケージを削除する必要があります。

2. スーパーユーザーでログインして、次のコマンドを入力します。パッケージ名の部分は、削除するパッケージ名に置き換えます。

```
# pkgrm パッケージ名
```

新しい各言語対応パッケージのインストール

新しい各言語対応パッケージのインストール方法については、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。

サポートされないモジュール

Sun Management Center 3.5 製品に付属している動的再構成 (DR) モジュールは、ワークグループサーバーシステムでは機能しません。Sun Fire V880 上での DR に関するコマンドの実行についての詳細は、13 ページの「Sun Fire V880 用の動的再構成 (DR) モジュール」を参照してください。

プラットフォーム別の注意事項

この節では、ワークグループサーバーマシン別の情報を提供します。

Sun Enterprise 450 拡張ドライブ

Sun Enterprise 450 サーバー用の 8 ベイ記憶装置拡張キットを 1 または 2 台注文したか、取り付けた場合、追加したディスクを物理表示するには、ok プロンプトから `disk-led-assoc` パラメタを設定する必要があります。この設定は、拡張用のバックプレーンとドライブが工場に取り付けられた場合も行う必要があります。8 ベイの記憶装置拡張キットの取り付け方法とパラメタの設定方法は、『Ultra Enterprise 450 サーバーユーザーマニュアル』(Part No. : 805-0532-10) で説明しています。「8 ベイ記憶装置の拡張オプションの取り付け」の節の末尾の説明を参照してください。

『特記事項 : Sun Ultra 450、Sun Enterprise 450』(Part No. : 805-5560-10) にも、パラメタの設定に関する説明が記載されています。このマニュアルは、Solaris では、Sun Hardware Supplement CD に収録されています。また、Web サイト、docs.sun.com から入手することもできます。

Sun Fire V880 用の 動的再構成 (DR) モジュール

注 – Solaris オペレーティング環境のバージョン 8 以降では、動的再構成 (DR) がサポートされています。

Sun Fire V880 用の動的再構成 (DR) モジュールを読み込むと、そのモジュールが Sun Management Center 3.5 のメインウィンドウの「ハードウェア」タブに表示されます。

動的再構成 (DR) 操作を行うには、変更する値上でマウスの右ボタンでクリックして、新しい値を選択します。このときに表示されるメニューの下部は可能な DR 操作の全一覧です。選択した値に対して行える DR 操作がない場合、メニューには何も表示されません。メニューから DR 操作を選択すると、確認ウィンドウが表示され、操作が完了するまで開いたままになります。

DR 操作が受け付けられるのは、「受容装置」および「占有装置」の列です。

注 – PCI カードを再構成するにあたっては、前もってそのカードが DR 操作に対応していることを確認してください。DR に対応していない PCI カードに対して DR 操作を行わないでください。今回のリリースでは、CPU モジュールの動的再構成は実装されていません。

Sun Ultra 5 ワークステーションに対するエージェント更新の利用

エージェント更新 (Agent Update) ユーティリティを使用して、Sun Ultra 5 ワークステーション上の Sun Management Center 3.5 エージェントを更新すると、更新後にワークステーションが自身を Sun Ultra 10 として定義することがあります。この場合、Sun Management Center のウィンドウのアイコン表示と物理表示が、Sun Ultra 5 ではなく Sun Ultra 10 として表示されます。

適切なアイコン表示と物理表示が行われるようにするには、以下の操作を行います。

1. システムプロンプトで `es-stop -a` コマンドを入力します。
2. 以下の `cd` コマンドを入力することによって `/var/opt/SUNWsymon/platform` ディレクトリに移動します。

```
% cd /var/opt/SUNWsymon/platform
```

3. お好みのテキストエディタを使用して、このディレクトリにある `platform.prop` ファイルを開きます。
4. `UltraModel=10` の行を `UltraModel=5` に変更します。
5. ファイルを保存します。
6. システムプロンプトで `es-start -a` を入力し、Sun Management Center エージェントを起動しなおします。

バージョン 3.5 での新しい規則

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアには、2つの構成リーダーモジュールが含まれています。1つは Sun Ultra、Sun Enterprise、Sun Fire 280R サーバーのサポート用、もう1つは Sun Fire 280R/V480/V880 サーバーのサポート用です。

Sun Management Center からの RSC ソフトウェアの起動

Sun Management Center では、Sun Management Center ブラウザから Sun Remote System Controller (RSC) ソフトウェアを起動することができます。RSC は、サーバーを遠隔監視、制御したり、システムで問題が発生した場合に電子メールあるいはポケベルでそのことを通知するアラームを設定したりするための機能です。

RSC は RSC カードとその付属 RSC ソフトウェアで構成されています。一部の VSP High-End Entry サーバー (ワークグループサーバー) には、RSC カードが内蔵されています。RSC ソフトウェアとの対話には、サーバーとの telnet 接続を利用したコマンド行インタフェース (CLI) と、グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) 形式のどちらでも利用できます。

注 – Sun Management Center から RSC GUI を起動するには、Sun Management Center コンソールを実行しているマシンに `SUNwrscj` がインストールされている必要があります。このパッケージをまだインストールしていない場合は、RSC 製品の Web ページ (<http://www.sun.com/servers/rsc.html>) からダウンロードして、インストールできます。

Sun Management Center ブラウザから RSC を起動する手順は以下のとおりです。

1. 監視するサーバーのアイコンをクリックします。

2. 「ツール」メニューから「Launch Remote System Control (RSC)」コマンドを選択します。

「Launch Remote System Control (RSC)」ダイアログボックスが表示されます。Sun Management Center はサーバーの RSC カードのホスト名または IP アドレスを特定しようとしています。この特定に成功すると、「RSC Hostname or IP」フィールドにその情報が表示されます。この情報が表示されないか、別の IP アドレスを使用する場合は、このフィールドに手動で入力することができます。

3. RSC GUI (インストールされている場合) か Telnet を選択します。

GUI がインストールされていない場合は、GUI が使用不可能であることを示すメッセージがダイアログボックスに表示されます。この時点で GUI ソフトウェアパッケージをインストールしてから次に進むか、telnet を使用して RSC に接続することができます。

4. RSC に接続する場合は、「Launch RSC」をクリックします。

RSC についての詳細は、Sun Remote System Controller のマニュアルを参照してください。

